



外国文献紹介

腰仙移行部に生じた椎間孔内あるいは椎間孔外の神経絞扼の術前診断における CT 検査の感度について—MR ミエログラフィと比較して

Lee SH et al : Sensitivity of computed tomography compared with that of magnetic resonance myelography in the presurgical diagnosis of foraminal or extraforaminal entrapment at the lumbosacral junction. Clin Spine Surg 31 : E13-E18, 2018

筆者らは、腰仙移行部で第5腰椎神経絞扼が疑われて除圧手術を実施した95例について、後向き調査を行い検討した。術前にCT検査およびMRミエログラフィ（MRM）が行われており、手術時に第5腰椎神経の絞扼の有無が確認された。2名の外科医が各々CT検査で第5腰椎神経前枝の直径の評価を、またMRMで第5腰椎神経の走行および後根神経節腫脹の評価を行った。その結果、両名の診断結果は良好な一致を示し、CT検査およびMRMはともに高い感度を示した。そして、CT検査は腰仙移行部の第5腰椎神経絞扼の術前診断に関して、MRMに匹敵する感度があると述べている。

瀬戸一彦